

わが家のアイドル



きせ あいぎ
喜瀬 藍希

平成23年9月12日生まれ

母：夏希
父：友希（宮平）
これからも愛嬌たっぷりの藍希でいてネ♪



よねしま きっぺい
米嶋 桔平

平成24年10月10日生まれ

母：結子
父：修平（津嘉山）
いつも桔平の笑顔に癒されています♪

わが家のアイドルコーナーでは、満3歳までのちびっこを募集しています。掲載写真はお返しします。総務課広報担当までご連絡ください。

☎ 889-4415

南小の本仲校長が水泳の熱血指導

今年度で定年を迎える南風原小の本仲範男校長が5月31日、水泳の指導方法を後輩に伝授しようと、島尻地区の教員を招き水泳授業研究会（公開授業）を開きました。授業の中で本仲校長は「ドル平」泳法を紹介。ドル平とは、ドルフィンキックと平泳ぎの手の動きを組み合わせたようなもので、呼吸法を覚えるのに最適な泳法です。ゆっくり長く泳ぐことに重きを置いています。このドル平を習い、この日初めて25mを泳いだ阿波根愛衣さんは「とても嬉しい！最初は全然泳げなかったけど、校長先生に習って泳げるようになりました」と笑顔で話していました。授業を終えて本仲校長は「泳げるようになると、人生が変わる」と言われています。泳げることで、自分に自信を持てる児童が増えてくれたら嬉しいです」と話しました。



児童らにドル平の呼吸法を教える本仲校長

歯を大切に！ ちむぐる館でデンタルフェア

「歯と口の健康週間」（6月4～10日）の一環として、第37回デンタルフェア（主催・南部地区歯科医師会、県歯科医師会）が6月9日、県南部の各地で開催されました。島尻会場のちむぐる館には、町内外から多くの親子が参加しました。歯医者さんによる歯の健康相談コーナーや、歯科衛生士・助手さんによる歯みがき練習コーナーなどで、参加者は歯と口の健康づくりについて学びました。宮平から参加した池城永福くん（5）は「歯みがきのやり方を楽しく勉強できた。お家でも頑張ります」と話していました。



歯磨きの指導を受ける子どもたち

限りある水資源へ親しみを 南部水道で図画コンクール

6月1日～7日の水道週間にちなみ、南部水道企業が小・中学生図画コンクールをこのほど開催しました。水道に対する理解を深め、限りある水資源へ親しみをもちてもらうことを目的としています。南風原町・八重瀬町の小・中学校から226作品の応募があり、本町から20作品が入賞しました。表彰式が6月14日、同回庁舎で開かれ、赤嶺勤企業長（前南風原町経済建設部長）は「昨年にならい、今年も全国のコンクールで入賞してほしいです」とあいさつ。小学校高学年の部で企業長賞を受賞した池原盛智君（南風原小4年）は「汚れた川をみんなできれいにしようというテーマで描きました。来年もチャレンジしたいです」と笑顔で話しました。



受賞を喜ぶ池原盛智君



企業長賞を受賞した作品

はえばる NEWS

お父さんたちが教壇デビュー！？ 翔南小PTA読み聞かせ隊

翔南小学校PTAで活動している「読み聞かせ隊」は5月26日、学校公開日で朝の読み聞かせを行いました。普段は保護者や地域の方々、6年生児童で活動していますが、公開日が日曜日ということでお父さん方に依頼したところ、快く引き受けてくださり、8人のお父さんがデビューしました。読み聞かせを終えたお父さんたちは「緊張したあ〜」「あんなに真剣に聞いてくれるんだね〜」などと、いつもと違う体験をし、笑顔で感想を話していました。読み聞かせ隊はこれを機に、もっとたくさんのお父さんたちによる読み聞かせの機会を増やしていきたいとのこと。



緊張な面持ちで読み聞かせをするお父さんたち

町老連 創立50周年を祝う

町老人クラブ連合会（松堂厚雄会長）が今年で創立50周年を迎え、5月24日、中央公民館で「町老連創立50周年記念 第50回南風原町老人クラブ大会」を開催しました。松堂会長は式辞で「近年の少子高齢化に伴い、高齢者自ら健康保持増進に努め、社会の一員として生きがいある輝く老人像が求められています。私たちは今日の日を機軸に前進して参ります」とあいさつしました。大会では、同じく発足50周年を迎える兼城翔翔会、喜屋武老人クラブの2団体と、17名の個人に50周年記念表彰がされたほか、芸能祭で会員による古典音楽やかざりやで風などが披露されました。



50周年記念表彰を受けた会員ら

神奈川県の高校生が南風原で農業体験

神奈川県綾瀬市にある日々輝学園高等学校の生徒らがこのほど、修学旅行で沖縄を訪れ、そのうち4名が長元朝顕さん（山川）宅で5月29～31日の日程で民泊体験をしました。4名は期間中、琉球かすり会館や南風原文化センターなど町内の施設を訪れたほか、宮平土地改良区内の神里敦さん（山川）の畑で農業体験をしました。今回体験したのは、ヘチマの受粉作業です。慣れない手付きでしたが、長元さんや神里さんの手ほどきを受けながら楽しんでいる様子でした。生徒からは「ヘチマが食べられることは知らなかったけど、ブームは必ず来ると思います！」と、嬉しいコメントをもらいました。



（左から）ヘチマの受粉体験をした生徒ら（4名）、長元さん、観光協会の藤原さん

随筆集『はえばる』第19号発行

はえばる随筆クラブ（村田用二会長）が毎年発行している随筆集『はえばる』の第19号（267ページ）がこのほど発行され、出版祝賀会が5月25日、ちむぐる館会議室で開かれました。今では県内唯一の随筆集です。『はえばる』には、会員が日ごろ何気なく感じたことや過去を振り返る内容がたっぷりとつづられているほか、町民・県民の快挙が報じられた新聞記事なども載せられています。村田会長は「会員には80歳に近い面々も多いが、書くことで脳を活性化させながら、来年の成人号（20号）に向けて頑張っていきたい」と、次号への抱負を語りました。



発行を祝うはえばる随筆クラブ会員と関係者ら